

# 伊勢湾台風は岐阜県を直撃し、各地に大きな被害をもたらした。

## 伊勢湾台風の概要 (岐阜県内)

昭和34年9月26日午後6時20分超大型に発達した台風15号は、いささかの衰えも見せず、潮岬の西およそ15キロに上陸した。

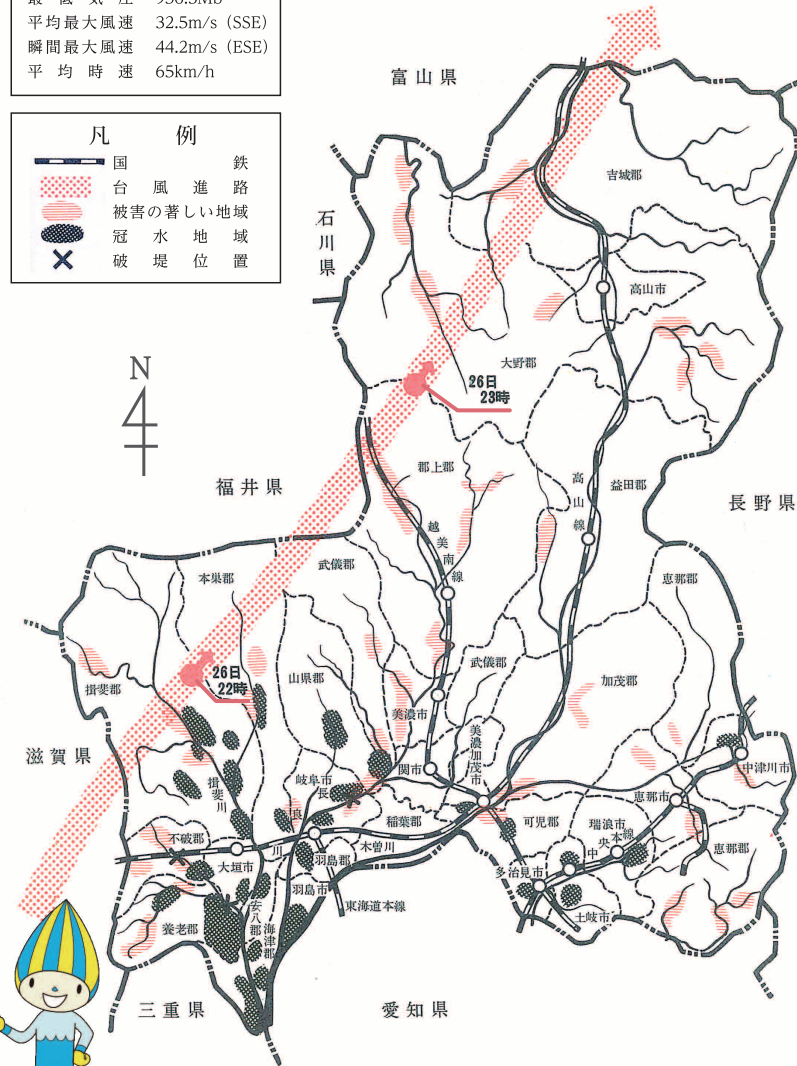
岐阜県には、すでに不気味な雨風が吹きすさび、台風進路の右半圏に入った東海地方全域は、最悪の暴風圏にさらされた。

台風が中心が通過する約3時間はいささか上がった暴風とともに、時間雨量40~70ミリの激しい雨が降り続き、家屋の全・半壊と河川の溢水、氾濫による悲惨な災害が各地に続出、荒れ狂う台風15号は一夜にして岐阜県全土に猛威の爪あとを残した。

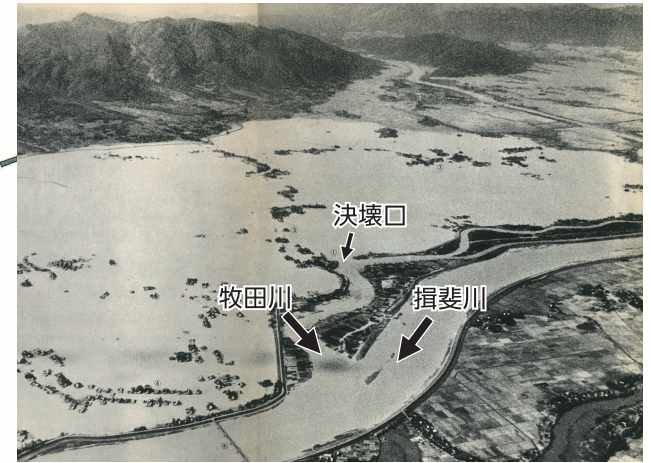
その規模は台風史上最大といわれる室戸台風に匹敵する超A級のものと観測され、「伊勢湾台風」と命名された。明けて27日、県では直ちに災害救助法を発動、ぼうぜん自失する被災者を励まし、全力をあげて災害の復興に立ち上がったが、次々と判明する被害は時間の経過とともに増大し、死者104名、負傷者1,708名、家屋全・半壊、破壊は23万戸、被害総額は500億円にのぼり、県政史上かつてない大災害をもたらした。

気象状況	
観測地点	岐阜
最低気圧	956.3Mb
平均最大風速	32.5m/s (SSE)
瞬間最大風速	44.2m/s (ESE)
平均時速	65km/h

凡例	
	国鉄
	台風進路
	被害の著しい地域
	冠水地域
	破堤位置



当時、大学卒業者の初任給は1万1,297円、  
鉄道の初乗運賃は10円でした。  
被害総額500億円は、現在の約1兆円に値します。



泥海と化した多芸輪中一带(養老町、南濃町)



東濃地方では、陶磁器工場の大半が甚大な被害を受け、生産は一時全面的にストップしました。